

令和6年12月 教育委員会定例会会議録

1 開会の日時

令和6年12月19日（木） 午後3時30分

2 出席委員

新 倉	聡	教育長
荒 川	由美子	委員（教育長職務代理者）
澤 田	真 弓	委員
川 邊	幹 男	委員
元 木	誠	委員

3 出席説明員

教育総務部長	古 谷 久 乃
教育総務部総務課長	加 藤 博 昭
教育総務部教育政策課長	飯 田 達 也
教育総務部生涯学習課長	杉 山 賢 一
教育総務部教職員課長	筒 井 宣 行
教育総務部学校管理課長	二 見 裕 一
学校教育部長	坂 下 裕 一
学校教育部教育指導課長	鈴 木 史 洋
学校教育部支援教育課長	原 口 尚 延
学校教育部保健体育課長	小 田 耕 生
学校教育部学校食育課長	高 橋 大 步
学校教育部教育情報担当課長	矢 本 美 奈
中央図書館長	柿 原 美 奈
博物館運営課長	北 山 剛 子
教育研究所長	梅 谷 尚 子

4 傍聴人 5名

5 議題及び議事の概要

- 教育長 開会を宣言
- 教育長 川邊委員から欠席する旨の報告があったことを報告した。
地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、教育長及び在任委員の過半数が出席しているため、会議は成立する。
- 教育長 本日の会議録署名人に澤田委員を指名した。

- 教育長報告

(新倉教育長)

それでは、11月定例会から本日までの間の所管事項について報告をさせていただきます。

お手元の定例会教育長報告資料等をご参照いただければと思います。

市議会関係につきましては、12月12日まで12月定例会が開催されておりました。当初の補正議案と最終日に教職員等の給与の改定につきます議案を追加提案させていただき、議決をいただいているところです。

教育委員会関係の行事としては、12月10日に第2回目の学校給食運営審議会が開催されました。これらの経緯につきましては、後ほど報告をいただこうと思っています。また、一昨日、17日には三浦半島地区教育長協議会、3市1町の教育長による協議会がございまして、これに対する年度計画、決算並びに意見交換会等を開催させていただいたところです。

また、ちょっと記載が間に合わなかったのですが、本日午前中に、私立学校、高等学校の4校長と教育委員会との懇談会を開かせていただきました。本市の子どもたちの進学状況並びに公立中学校に期待すること等の意見交換を行わせていただいたところです。

その他各種行事としましては、11月14日に、全国中学生創造ものづくり教育フェアの関東甲信越地区大会の出場生徒の激励会を開催させていただきました。中でも、ロボコンに関しましては、関東大会を勝ち抜いて全国大会に参加している状況でございます。この点につきましては、本日、後ほど報告事項とさせていただきます。

また、11月22日から26日に、児童生徒作品ふれあい作品展を文化会館で開催をさせていただいて、約2,500人の来場者をいただいたところです。

また、11月23日には、児童生徒表現運動・ダンス発表会を総合体育会館のメインアリーナで行わせていただき、二百数十名の方のご参加をいただいたところです。

その他は記載事項のとおりでございます。

(質問なし)

教育長 報告事項を聴取することを宣言

報告事項(1) 横須賀市学校給食運営審議会の検討経過について

(学校食育課長)

それでは、報告事項1、横須賀市学校給食運営審議会の検討経過についてご報告いたします。

教育委員会の附属機関である横須賀市学校給食運営審議会に対し、令和6年9月24日付で諮問した今後の学校給食費の額について、同審議会における検討経過をご報告するものです。

恐れ入ります、2、検討経過をご覧ください。

まず、令和6年9月24日、第1回会議が開催され、給食運営の現状について意見交換が行われました。

イ、会議概要、意見概要をご覧ください。

現状についてです。献立を作成する栄養教諭や調理員などからは、食材料の価格高騰により献立作成が困難になっている、生きた教材としての献立を立てることが難しい状況となっているといった意見、喫食する側の教員や保護者からは、子どもたちの成長、適切な栄養摂取の観点から給食の果たす役割は大きい、品数の減少を感じることもある、献立作成の工夫による提供内容の変化により残食も増えつつあるといった意見もありました。

今後の給食費については、現行の給食費による献立作成は非常に厳しい状況であり、改定はやむを得ない、保護者に対して丁寧に説明し理解していただくことが重要である、値上げは生活が苦しい家庭にとってはインパクトがある、何らかの暫定措置などがあれば保護者の理解を得やすいのではないかと、頻繁に給食費を改定されるのは好ましくないと思う反面、長期的な物価上昇を見据えると改定当初の給食費が高額になるという課題もある、近年の物価高騰は戦後直後を除けばあまり例がないのではないかとといった意見がありました。

続いて、令和6年12月10日に第2回会議が開催され、給食費シミュレーション案や答申内容の検討が行われました。

恐れ入ります、裏面のイ、会議概要、ア、給食費についてをご覧ください。

第1回の審議を踏まえ、資料に記載した3つのシミュレーション案について審議が行われ、案②の給食内容の改善に必要となる単価、小学校330円、中学校

395円が妥当であるとなりました。

案②が妥当とする意見には、物価高騰のみ反映させた増額の場合、現状の献立と同様の状況が継続し、給食内容の改善につながらないため、一定程度の増額は必要である、高い額のほうが子どもたちにとってより望ましい献立を提供しやすいが、一方で大幅な増額は保護者の負担感が大きく、ひいては未納者が増える可能性もあるなどがあり、また、物価上昇額の予測は難しい面があるので、今回の給食費の改定後、物価高騰に対応できているか、献立の改善が図られているかなどを審議会として継続的に注視していく必要があるといった意見がありました。

答申については、当日の審議内容を基に委員長による内容整理を行った後、年内に教育委員会に提出することとなりました。

以上で、横須賀市学校給食運営審議会の検討結果について、説明を終わります。

(澤田委員)

教えていただきたいのですが、現状についての最後の箇所、「工夫による提供内容の変化により残食も増えつつある」というのは、具体的にどのようなことなのか教えてください。

(学校食育課長)

どうしても献立の工夫、使う食材料費の工夫といったところで、廉価のものをどうしても同じ回数出してしまうので、またかというか、似たような味になってしまいますので、そういった意味で残食が増えつつあるという、そういった内容です。

(元木委員)

裏面のシミュレーションの結果についてなのですが、中学校につきましては5円刻みで上昇していると。対して小学校については20円刻みで上昇している形になっておりますが、この違いはなぜ起きているのでしょうか、教えてください。

(学校食育課長)

小学校の給食費改定は平成30年度以降行っていなかったもので、そういった意味で上げ幅が大きくなっております。一方、中学校については令和3年10月に変えたばかりですので、そういった意味で上げ幅が少ないといった状況です。

(荒川委員)

2 ページ目の意見概要の中に、2 つ目のポチのところ、大幅な増額は保護者の負担感が大きく、ひいては未納者が増える可能性もあるということなのですが、未納者の数というのはどのくらいの割合であるのでしょうか、教えていただければと思います。大体で結構です。

(学校食育課長)

令和5年度の未納者の数というところが、今、直近でいうところの決算額になるのですが、申し訳ありません、今、手元にありませんので具体的な数字が出てこないのですが、件数としては月ごとに1件と数えますので、何月分で1件となりますので、1人であっても二月分未納してしまえば2件となりますので、数でいうと多くなってしまいます。

(新倉教育長)

私からの確認事項です。今日、検討経過についての報告をいただいています。年内に教育委員会宛てに答申が出てまいります。これはその後に1月の教育委員会定例会等において方針を決めていくという、そういう流れでよろしいですか。

(学校食育課長)

はい、教育長のおっしゃるとおりです。

(新倉教育長)

ということは、現段階では最終的な答申案の文章というのを頂いていないので、今後、そのような方向、いわゆる給食費の改定を行っていく基本的な案がある程度出たよということのご報告をいただき、事後の金額その他の確定については、今後、1月の定例会において判断をするという、そういう方針だということによろしいですね。分かりました。

(質問なし)

報告事項(2) 行事等の結果について

ア 第12回「いのちの授業」作文の受賞について

(教育指導課長)

第12回「いのちの授業」作文の受賞について報告をいたします。

神奈川県教育委員会が行っている「いのちの授業」大賞作文募集において、市立小学校児童の作品が入選し表彰されました。

この「いのちの授業」大賞作文募集は、県内の各学校において、道徳科をはじめとしてあらゆる教育活動を通じて行われている命のかけがえのなさや、夢や希望を持って生きること、人への思いやり、互いに支え合って生きることの大切さなどを子どもたちに実感してもらう様々な取組について、そのさらなる充実を図ることを目的として実施されているものです。

作品が入選すると、作文の作者である児童・生徒とその授業の実践者が表彰されます。今回は、長井小学校の石橋直生教諭が実践した授業において、2年生の牧野清音さんが書いた作文「わたしのはなし」が県PTA協議会会長賞を受賞し、12月12日、神奈川県庁において開催された表彰式で表彰されました。

なお、資料2ページには受賞一覧を、3ページには牧野さんの作文を掲載しておりますのでご覧おきください。

報告は以上です。

(澤田委員)

横須賀市内では何作応募があったのでしょうか。

(教育指導課長)

県のほうからは参加人数ということで報告を受けておりますが、学校数でいいますと、小学校が3校、中学校が3校ずつの応募があったということでした。それぞれの人数ですが、長井小学校4名、池上小1名、船越小28名と聞いております。中学校のほうは、学年や学校全体で取り組んだ学校が多かったようで、大矢部中が329名、長沢中280名、神明中406名ということで報告を受けております。

(新倉教育長)

様々な中で1点だけ確認なのですけれども、各学校で、読書感想文も含めたり、今回のいのちの大賞の作文だとかがあるのですが、全ての学校で同じものに取り組みということではなくて、それを指導している先生、そのやろうとする学校ごとの募集になっているということでもいいのですか。

今のお話ですと、小学校が本来なら46あるけれども、そのうちの3校の教員が自分の授業で取り入れようとした場合にのみ、その授業を行ったために書いたものが提出対象になる。ですから、表彰者というか書いた本人、児童・生徒とそれ以外の授業実践者のお二人の名前が出ていくということでもいいのですか。

(教育指導課長)

まず、いのちの授業の実践事例については、全ての学校から集約し、市教育委員会から県教育委員会のほうに報告をしています。それをきっかけとして作文を書かせる指導をされるかどうかということは、各学校や授業者の判断によるもので、それによって応募があるかないかという違いがあるということであり
ます。

(新倉教育長)

これは例えば先ほど私が言ったように、読書感想文が例えば夏休みの宿題だったかなと思うのですけれども、それも同じように扱うので、少なくとも1つ2つということではなくて、作文にしても何十個の大会があり、それぞれにどれを選択するかというのは各学校の校長、あるいは教員の判断で行われているということ
でいいですか。

(教育指導課長)

今、教育長がおっしゃったとおりです。

報告事項(2) 行事等の結果について

イ 第24回全国中学生創造ものづくり教育フェア in かながわ
及び関東甲信越地区大会の結果について

(教育指導課長)

第24回全国中学生創造ものづくり教育フェア in かながわ及び関東甲信越地区大会の結果についてご報告いたします。

このものづくり教育フェアは、中学校の技術・家庭科の授業で学習した成果を
発表し合い、お互いの技術を交流する機会となる大会です。

初めに、資料1ページから3ページに記載しています、11月2日に行われた第
24回全国中学生創造ものづくり教育フェア in かながわの結果についてです。

横須賀市の中学校は、創造アイデアロボットコンテストとあなたのためのお
べんとうコンクールの2部門に出場しましたが、創造アイデアロボット
コンテストにおいて、鷹取中学校、常葉中学校、北下浦中学校、長井中学校のそれ
ぞれ1チームが関東大会へと出場することになりました。

また、惜しくも関東、全国大会には届きませんでした。あなたのためのおべ
んとうコンクールにおいて、長沢中学校の2チームと長井中学校の1チームが

神奈川県中学校文化連盟会長賞を、創造アイデアロボットコンテストにおいては、常葉中学校1チームが神奈川県公立中学校教育研究会技術・家庭科研究部会部会長賞を受賞しました。

次に、12月1日に群馬県藤岡市で開催されました関東甲信越地区大会についてです。

資料の4ページをご覧ください。

県大会で創造アイデアロボットコンテストを勝ち抜いた鷹取中学校、常葉中学校、北下浦中学校、長井中学校の各チームが出場しました。この中で、応用部門に出場した長井中学校の長井舜武号チームが第3位、そしてアイデア賞を受賞し、全国大会への出場権を獲得しました。

また、基礎部門に出場した北下浦中学校のw o l f o xチーム、制御部門に出場した鷹取中学校のフランドール87チームは予選リーグ敗退、応用部門に出場した常葉中学校の常葉F r e e d o mチームは決勝トーナメントに進みましたが、途中敗退という結果でした。

なお、全国大会は令和7年1月31日、2月1日に東京都六郷工科高等学校を会場にして行われる予定です。

以上で報告を終わります。

(新倉教育長)

私のほうからは、アイデアロボットコンテストの全国大会に出るのって何年ぶりでしたっけ。前回のを覚えていらっしゃるでしょうか。

(教育指導課長)

去年2月のこの定例会で全国大会の結果を報告しておりますので、昨年度も長井中学校のチームが出場しております。

報告事項(2) 行事等の結果について

ウ 横須賀市小学校児童陸上記録大会の結果について

(保健体育課長)

それでは、ウ、横須賀市小学校児童陸上記録大会の結果について報告いたします。

この大会は、市立小学校5、6年生の代表児童が参加して行われるもので、今回で56回目を迎えました。今年度は、市立小学校46校から794名の各校代表選手が参加し、11月9日土曜日に不入斗公園陸上競技場で開催いたしました。

大会当日は大変穏やかな天候となり、6年生男子100メートル走、そして6年生女子走り幅跳びで大会新記録が更新されるなど、子どもたち一人一人が、力いっぱい日々の練習の成果を発揮しました。

資料のほうには、各種目1位の記録について記載しております。

委員の皆様には開閉会式の出席も併せ、ご支援、ご協力いただき誠にありがとうございました。

以上で、横須賀市小学校児童陸上記録大会の結果について報告を終わります。

(新倉教育長)

ありがとうございます。

また、各委員の皆様にはご参加いただきましてありがとうございました。

当日のこともあるかと思うので、ご意見があれば、ご感想でも結構ですので、いかがでしょうか。

(澤田委員)

天気もよく、大会新も出て大変盛り上がった会だったと思います。準備や指導等、大変な面もありますが、子どもたちの気持ちの面や体力的な面、心を育てるという役割を果たしていると思いました。このような機会は大切だなと思いました。

(荒川委員)

私も澤田委員と同じなのですが、お天気にも恵まれたのですが、何といたしても、新記録だけでなく、結果が発表されたときなど、会場全体が温かい拍手とか声援とかそういうものに包まれて、すごくいい雰囲気です。大会ができたなと思っています。やはりこういう空気というのは、子どもたちの成長の過程の中で、励まされているとか応援してもらっているということを感じるといっては、とても大事なことです。とてもいい大会だと思いました。ありがとうございました。

報告事項(2) 行事等の結果について

エ 第42回横須賀市児童生徒表現運動・ダンス発表会の開催報告について

(保健体育課長)

それでは、エ、第42回横須賀市児童生徒表現運動・ダンス発表会の開催につい

て報告いたします。

資料1 ページをご覧ください。

11月23日土曜日、総合体育会館メインアリーナにおきまして、第42回横須賀市児童生徒表現運動・ダンス発表会を開催いたしました。

この大会は、以前は小学校表現運動発表会、中学校ダンス発表会とそれぞれ独立して開催しておりましたが、現在は表現運動・ダンス発表会という名称で小学校と中学校が一緒に参加する形で開催しております。

今年度は、小学校4校、中学校3校の計7校から231名の児童・生徒が出場いたしました。子どもたちは一生懸命練習してきた作品を、横須賀アリーナという広いフロアいっぱいを使って曲やリズムに合わせて体いっぱいに踊り、多くの観衆を前に授業、学校行事の成果を披露しました。そして、校種を超えて、お互いの作品を鑑賞し合い、児童・生徒だけではなく、指導に携わった教員にとっても大変有意義な機会になりました。

また、当日は昨年度まで坂本中学校で校長を務められ、現在は日本女子体育大学教授であります前島光先生を講師としてお招きし、一つ一つの出場作品についてご指導、ご助言をいただきました。

出場校の発表内容と講師講評につきましては、資料1 ページの下段から4ページの記載のとおりでございます。

委員の皆様には開閉会式の出席も併せまして、ご支援、ご協力いただき誠にありがとうございました。

以上で報告を終わります。

(新倉教育長)

大変ちょっと肌寒い日だったのかなと思いながら、子どもの皆さんの熱意を感じ取れた大会だったのかなと思いますが、ご感想があればお願いします。

(荒川委員)

小学生と中学生が一緒の大会というのはこれだけだと思うのですが、そういう中で、参加人数の多い少ないはありましたが、どの児童・生徒も体全体で表現活動をしていて、本当に素晴らしいなと思いました。

ダンスの内容ですとか、テーマなどを見ても、毎年、何か新しいものが考えられているなと感じました。ありがとうございました。

報告事項 (2) 行事等の結果について

オ かながわ学校給食夢コンテストの結果について

(学校食育課長)

それでは、かながわ学校給食夢コンテストの結果についてご報告いたします。

神奈川県教育委員会主催のかながわ学校給食夢コンテストにおいて、本市児童・生徒が考えた献立が受賞しました。

1、概要です。このコンテストは児童・生徒の食育の推進に向けた機運を高めるとともに、学校給食のイメージアップや地産地消の奨励などを目的に、自慢の学校給食の献立や給食で食べてみたい夢の献立を募集し、共催である神奈川県栄養士協議会ほか3団体も含め、審査、表彰するものです。受賞作品は夢をかなえるため、給食での提供や総菜としての商品化が検討されます。

2、「夢の献立」応募・受賞の状況についてですが、(1) 県の全体と比較してみると、本市の中学生の活躍が見てとれます。(2) 各賞の受賞状況では、思いやりあふれる夢のメニューで賞2点、アイデアたっぷりおいしさいっぱい賞1点、県産品を上手に使った賞1点、野菜で笑顔あふれる賞2点、6名の児童・生徒がそれぞれ受賞しました。

裏面に受賞の献立を記載しております。

以上で説明を終わります。

(澤田委員)

献立を考える際に、部門によっては、カロリーやこの食品群を使わなければならないとかの条件はあるのでしょうか。

(学校食育課長)

各部門によってというところでは、詳細のところはちょっと不明なのですが、基本的には細かい条件ではなくて、例えば地産地消のものを使っているですとか、学校給食のイメージアップにつながるもの、そういったものを応募しているという。あとは食べてみたいというところで、そういったところに気持ちがあるものを応募していただくという、そういうことになっております。

(新倉教育長)

これも先ほどの作文ではないのですけれども、中学校だとかだと、部活動で家庭科部や何かあって、そこから先生と一緒によく話したとかあるのですけれども、小学校の子どもたちがこれに参加しようというときというのは、どういふふうに募集がかかるのですか。

(学校食育課長)

小学校のほうは、それぞれ栄養教諭を通じて学校に応募をかけている、そういう状況です。

(新倉教育長)

聞きたかったのは、部活動だと、先生と子どもたちは直接つながりできるのだけれども、栄養教諭に募集をかけたとして、栄養教諭はどうやって子どもたちに伝えているのですか。授業があるのですか。栄養教諭が授業単位持っているわけではないですよ。だから、そういうところってどういうふうに募集しているのかなと思っただけ、現場のほうは。

(学校食育課長)

申し訳ありません。その伝え方については、先ほど教育長がおっしゃったように授業を単独に持っているわけではございませんので、そこで伝えているというところではなかろうかとは思うのですけれども、細かいところまで学校現場の情報伝達についてはお聞きしておりません。

(新倉教育長)

何が言いたかったかという、総数で千六百幾つのうちの本市が550も参加できているということは、よほどそういうつながり等連絡もしっかりしているのかなと思っていて、中学校給食については、学校給食を実施してきたことから、皆さん、興味をよく持ってくれているということの一つの成果かなと思うのですが、逆に小学校のときにもっと募集かけてもいいのではないかなと思っているところがあるので、そのつながりについてはぜひもう一回確認をしていただいて、より多くの子どもたち、先ほどのいのちの作文も同じですけれども、どこかの学校に偏るのではなくて、みんなで取り組むという体制をつくってほしいなと思っただけ、その辺を進めてもらいたいなということです。

(理事者報告なし)

(委員質問なし)

○ 教育長 閉会を宣言

6 閉会及び散会の時刻

令和6年12月19日（木） 午後4時04分

横須賀市教育委員会

教育長 新 倉 聡